2021年7月吉日



**\*\*\*本リリースは2021年7月15日10:00（CET）に情報解禁とさせていただきます。**

**それまではこちらの情報のお取り扱いにご注意いただけますようお願い申し上げます。\*\*\***

**プレスリリース**

**真のリファレンス・モニタリングの**

**15周年を記念して新しいGLM 4.1 を発表**

**フィンランド、イーサルミ2021年7月**…..世界的スタジオ・モニターのリーダーであるGenelecは、高くご評価いただいているGLM（Genelec Loudspeaker Manager）の登場15周年を記念して、スマート・アクティブ・モニターおよびサブウーファーの全ラインナップに対応する「GLM 4.1」を発表いたします。今回のアップデートでは、さらなる画期的な新機能と機能向上を実現。なかでも新たなオートマチック・ルーム・キャリブレーション・アルゴリズム「AutoCal 2」が、より正確な周波数特性をこれまで以上に短い処理速度で可能にします。

GLM 4.1は数千箇所におよぶ実際の室内キャリブレーションデータに基づき、音響において室内の有害な影響に対して最適な制御を提供し、室内環境およびシステムの変化にも一貫性のあるミックス環境を生み出すことを可能とします。2006年にGLMが最初に紹介されて以来、数十年間におよぶ研究の結果、GLMはGenelecの各スマート・アクティブ・モニター内の知能型DSPハードウェアと円滑に統合。各モニターとサブウーファーをネットワークでつなぎ、ユーザーの皆様特有の音響環境に応じて最適化いたします。

GLMのリファレンス・マイクロフォン・キットは 、ユーザーの部屋の音響特性を正確に分析。そのデータを元に各モニターとサブウーファーの相対的なレベル、距離差による遅延、サブウーファーのクロスオーバー周波数の位相合わせや周波数応答を自動的に補正することができます。また、ユーザーの必要に応じて、グローバル放送、OTT（Over The Top）、ゲーム、映画の標準に基づいたdB SPL単位の絶対値の再生レベル補正を含む様々な個人オプションを使用することができます。このようにGLMは高次元の柔軟性を備える完璧なツールとして、優れた特性を持つ部屋をさらに追い込む場合の微調整や、そもそもクリエイティブな使用を前提に建設されていないために改善の余地が多くある空間での利用など、いずれの局面でも対応することができます。

今日では多種多様のリスニング・ルームが制作で使用されており、以前と比較しても音響的には豊かな響きを空間が増えてきていますが、GLM 4.1はそうした状況でも際立ってその能力を発揮。また、特に最近増加しているウルトラ・ニアフィールド(UNF)と呼ばれる50cmに迫る至近距離にモニターを配置している場合においても、ヘッドホンとモニター・スピーカーでの音のギャップを埋める橋渡し役としても有効です。

GLM 4.1の新機能であるAutoCal 2は、システム内の各モニターのバックグラウンド情報の詳細を利用し、直接音と反響音の正確な差別化を素早く実行します。さらに64ビット・アーキテクチャーの新規採用やコードの見直しによって、キャリブレーション速度の強化も実現しています。GLM 4.1はモバイル環境で作業を行なうオーディオ・エンジニアや、普段から様々なロケーションで作業を行うクリエイティブ・スタッフにとってパワフルなツールとなります。また、GLM 4では設定の保存先としてクラウド・ベースとローカル・ストレージを選択できるため、高い機動性も備えています。

同軸3ウェイ・ポイントソース・モニターである「The Ones」シリーズの[8331A](https://www.genelec.jp/studio-monitors/sam-coaxial-studio-monitors/8331-sam-studio-monitor/), [8341A](https://www.genelec.jp/studio-monitors/sam-coaxial-studio-monitors/8341-sam-studio-monitor/), [8351B](https://www.genelec.jp/studio-monitors/sam-coaxial-studio-monitors/8351-sam-studio-monitor/) 、 [8361A](https://www.genelec.jp/studio-monitors/sam-coaxial-studio-monitors/8361-sam-studio-monitor/) との組み合わせにおいては、GLM 4.1の位相線形性が新たに100Hzまで向上しました。同軸モニターにおいて、フェーズ・リニアリティは軸外のパフォーマンスやUNFのイメージの安定性において有効な機能です。GLM 4.1は、「The Ones」 シリーズの広範囲にわたる位相線形性の設定も考慮した上で、部屋にある全てのモニターのタイム・アライメントを正確に行います。

その他のGLM 4.1で追加された新機能としては、より優れた柔軟性を提供するためのEQフィルタ数の増加、GLMマルチポイント測定においての処理プロセスの精度の強化、イマーシブ・コンテンツを操作する時より迅速にソロ切り替え再生ができるSolo-Xモードの追加があります。そして新たに動作言語としてGLM 4.1よりフランス語、イタリア語、そしてポルトガル語を追加。10種類の言語から選択することが可能となりました。

「AutoCalのキャリブレーション・アルゴリズムは、常にGLMの中枢となります」とマネージング・ディレクターであるシアマック・ナギアンは語ります。 「だからこそ、GLMの15周年を記念するにあたって、AutoCal 2のローンチを加えたGLM 4.1のリリース以上の方法は考えられません。この15年の間にインテリジェント・ラウドスピーカーのキャリブレーションが、真のレファレンスを作り出すための最も信頼できる道筋として、徐々にではありますが一般的に認知されるようになってきました。私達はその道を先導し続けていることを誇りに思っています」

詳しい情報については[www.genelec.jp](http://www.genelec.jp/)をご覧ください。

**\*\*\*以上\*\*\***

**Genelecについて**

1978年の創立以来、Genelecはプロフェッショナル・オーディオ・モニタリングをビジネスの主軸としてきました。研究開発への飽くなき取り組みが革新的な技術を生み出し、Genelecはアクティブ・モニター業界を牽引する存在となりました。創立から40年経過した今でも、Genelecのモニター製品は当初の哲学を忠実に守り、サイズに関わらず信頼性の高いニュートラルなサウンド再生と、リスニング環境の音響条件へ適応する機能を提供します。Genelecユーザーは、音響的なアドバイスやキャリブレーション・サービス、テクニカル・サービス、そして長期の製品寿命など、最高のサポートを受けることができます。Genelec製品を購入することは、オーディオ・モニタリングに対する堅実な投資となるでしょう。

|  |
| --- |
| お問い合わせ先: 株式会社ジェネレックジャパン｜マーケティング電話番号: +81(0)3 6441 0591 email: press@genelec.jp |